



ハトダヨ
2019年
2月号

函館市中央図書館

編集・発行 函館市中央図書館 指定管理者 TRC 函館グループ

〒040-0001 北海道函館市五稜郭町 26 番 1 号

TEL (0138) 35-5500 FAX (0138) 35-5525

市中央図書館だより

第34号 平成31年2月1日 発行

予約ランキング

図書館でたくさん予約が入っている本は何か、みなさんにご存知でしょうか。ランキングを参考に読みたい本を探すのも一つの方法です。ご予約は図書館の窓口、またはインターネットからどうぞ。

＼平成31年1月4日現在、予約回数の多かった本をご案内しています／

1	沈黙のパレード	東野 圭吾／著	11	任侠浴場	今野 敏／著
2	すぐ死ぬんだから	内館 牧子／著	12	大家さんと僕	矢部 太郎／著
3	昨日がなければ明日もない	宮部 みゆき／著	13	下町ロケット [4]	池井戸 潤／著
4	愛なき世界	三浦 しをん／著	14	未来	湊 かなえ／著
5	ふたりぐらし	桜木 紫乃／著	15	ある男	平野 啓一郎／著
6	一億円のさようなら	白石 一文／著	16	ボーダレス	誉田 哲也／著
7	コーヒーが冷めないうちに	川口 俊和／著	17	むすびつき	畠中 恵／著
8	ブロードキャスト	湊 かなえ／著	18	鏡の背面	篠田 節子／著
9	下町ロケット [3]	池井戸 潤／著	19	国宝 上	吉田 修一／著
10	ファーストラヴ	島本 理生／著	20	フーガはユーガ	伊坂 幸太郎／著

イベント告知

開催日 平成31年2月17日(土)

時間 14:00~15:00

会場 函館市中央図書館
2階大研修室

申込み 不要。当日、直接会場まで
お越しください。

どなたでも参加できます。よい利用のしやすい

図書館にしていくなために、

皆さんの声をおきかせください。



中央図書館利用者懇談会

平成31年度募集

図書館ボランティア養成講座

開催日 平成31年2月23日(土)

時間 10:30~15:00

会場 函館市中央図書館 2階中研修室

対象 原則月1回以上のボランティア活動が
可能な18歳以上の方 10名(先着順)

受講料 無料

募集期間 平成31年2月2日(土)~2月12日(火)

申し込み 中央図書館企画担当 ☎35-5500 まで



受講された方は平成31年度より図書館ボランティアとして活動していただけます。ご応募お待ちしております！

ハトダヨにしか
載っていない！

ぜひ読んでみてください！

スタッフのおすすめ本

タイトル：「しおこんぶサマサマ！」

棚：児童 14～15
請求記号：596.3 シオ

著者：塩昆布フリークの会／編 出版社：池田書店（2007 年 12 月）

和え物に使ったり、おにぎりに入れたりと便利な塩こんぶ。ただその他の料理法があまり思いうかばない…。そんな時にこの本は大活躍します。載っているレシピはどれもすぐに作れて美味しそう。昆布の栄養や知識、だしをとった後の活用法まで、昆布に対する愛情がぎゅっと詰まった本になっています。塩こんぶが好きな方もこれから使おうと思う方もぜひ読んでみてください。

タイトル：「ばけもの好む
中将 [1]」

棚：A1～A3
請求記号：BF ㇏ 1

著者：瀬川貴次 出版社：集英社（2013 年 4 月）

主人公は中流貴族の青年・宗孝。御所に鬼が出たという話を聞き同僚に誘われて行った噂の現場で、怪異をこよなく愛する「ばけもの好む中将」宜能と出会います。なぜか宜能に気に入られてしまった宗孝は、ともに鬼の正体を調べることに。

ばけもの好む中将と愛らしい中将の妹姫、個性豊かな母親違いの十二人の姉たち、そして、いつも振り回されてばかりの宗孝。彼らが交わすテンポのよい楽しい会話もポイントです。魅力的な登場人物たちが織りなす、明るくライトな平安物語。1 巻に 4 つエピソードが

収録されていて、シリーズは現在 7 巻まで進行中。

タイトル：「拙者は食えん！」

棚：A13～A15
請求記号：383.83 ク

著者：熊田忠雄 出版社：新潮社（2011 年 4 月）

サブタイトルは“サムライ洋食事始”。鎖国から開国へと大きく歴史が動いた時代に、「洋食」なるものに出会った人たちの様子を紹介した歴史エッセイです。

ご飯に味噌汁、野菜や魚が中心の食生活を送っていた彼らは、バターやチーズ、油や香辛料で調理した肉など、それまで食べたこともない料理に困惑し、初めて使うナイフやフォークに悪戦苦闘。なかなか洋食の味に馴染めず「よくあんなものが食える」と嘆く者から、意外と早く順応できた者まで様々です。当時の使節団や留学生たちの日記がたくさん取り上げられていて、食事という観点から歴史の一場面を楽しく知ることができます。

館長随想（三十四）



図書館に新しく入った資料を見ると、その中にラドミル・エリシユカが最後に札幌交響楽団を指揮したライブCDがありました。

エリシユカは、チェコで才能ある指揮者といわれながら、政治体制や革命に翻弄され十分な活躍の場が与えられず、国外にはほとんど知られていませんでした。そのエリシユカが2004年73歳で初めて東京のオーケストラに招かれ、2年後の2006年12月には北海道にも来て、札幌交響楽団の定期演奏会でリムスキー・コルサコフの「シエラザード」等を演奏しました。私も会場で聴き、素晴らしい指揮者だと思いました。その思いは多くの観衆以上に、札幌交響楽団の団員たちが抱き、首席客演指揮者として毎年2度招聘されるようになりました。

何度も聴いたドボルザークの新世界交響曲で、エリシユカの演奏ほど新鮮な感動を与えられたことはありません。函館に来てエリシユカの演奏を聴く機会がなくなりましたが、高齢のため、残念ながら2017年10月が最後の来日となりました。

エリシユカは、NHK交響楽団をはじめ日本の多くのオーケストラを指揮しましたが、札幌交響楽団との相性が最も良く、いくつもの名演を残しました。私が聴くことのできなかった最後の演奏会をCDで聴くことが出来るのは嬉しいことです。この演奏会はベートーヴェンの英雄が予定されていました。最後ということ、最初に共演した「シエラザード」に変わり、それが収録されています。皆さん是非お聴きください。

デジタル資料館

紹介



函館図書館開館式紀念 明治四十二年二月十一日 (pc001199)

明治 42 (1909) 年 2 月、函館公園内の協同館を借り受けて私立函館図書館が開設されました。明治、大正、昭和、平成、そして新しい元号へ。これからも函館の図書館の歴史は続いています。

★函館図書館の父★

岡田健蔵の小ネタ集

函館図書館を作った岡田健蔵の功績は貴重な郷土資料の収集や不燃室の書庫や図書館の建設など枚挙に暇がありません。また函館の歴史や文化について数多くのことを書き残した人でもあります。岡田健蔵や函館図書館の歴史については下記の資料に詳しくまとめられています。

- 『岡田健蔵伝』坂本竜三／著 講談社出版サービスセンター
- 『ず・ぼん 13』(特集は「岡田健蔵の函館図書館」)ポット出版

ここではあまり知られていない岡田健蔵の小ネタについてご紹介してみたいと思います。

蕎麦の香りで疝気を治す！？

昭和11年10月、岡田健蔵は持病の疝気(せんき)で直立不動のままになってしまいました。しかし三日後には昭和天皇の行幸が控えており、青柳小学校で図書館の資料を天覧していただく予定。『広辞苑』によると疝気とは漢方で腰腹部の内臓の病気による疼痛のこと。ある人から「疝気の蟲は蕎麦好きだから蕎麦の香りを嗅げば鼻から出てくる、だが蕎麦を食べば胃袋で頂戴するから悪化する」と言われ、蕎麦通の岡田健蔵は大好きな蕎麦を目の前にして香りだけで我慢。やっとのことで腰が曲がるようになりました。

(参考:『函館毎日新聞』昭和11年10月8・11日)

旧幕府軍勇士の墓石発見！

函館山中腹で貯水池の澤の奥の方に二つある巨大な岩の根元から苔むした墓石が発見されたと聞いた岡田健蔵は、函館山要塞参謀同道で現場へ。墓石には「徳川儀士宮田登輔」「明治二年三月建」とあった。旧幕府軍兵士を埋葬した柳川熊吉が持っていた過去帳は焼失しましたが、儀士とあるのは身分を秘めたもので、目印のある場所に葬ったであれば相当の身分のものだろうというのが岡田健蔵の推測。宮田登輔の墓は五十年の時を経て仲間を祀った碧血碑の傍に移され、現在でもそこに残っています。

(参考:『函館新聞』昭和9年6月19日)

骨が描かれた『是空』の絵ハガキ♡



岡田健蔵の号は「図書裡」が有名ですが、他にも「是空」と名乗っていました。般若心経の中には「色即是空」という言葉があり、『総合佛教大辞典』によれば、物質的存在はなんら執着すべきもののない空しい存在であるという意味があるようです。中央図書館所蔵の是空名義の絵葉書には頭蓋骨の朱印や、鉢巻をした骸骨のユーモア溢れる版画が描かれています。

(画像:『自像讃 是空和尚[岡田健蔵](pc001079)』(左上・右下)／『おまえ百までわしゃ九十九まで ともに白髪のはへるまで(pc001162)』(左下)より抜粋。デジタル資料館に掲載)

